

# 高槻名誉市民を

# 19号

## 語り継ぐ会会報

平成 27年 11月 1日

高槻の街並みにも、紅葉の鮮やかさが目立ち始めました今日この頃、皆様に於かれましては如何お過ごしでしょうか。高槻名誉市民を語り継ぐ会も、10月より名誉市民をもっと知ろうと言う事で、新たな活動を開始しております。現在、「荘川桜」の存続に尽力した高碓達之助を勉強中ですが、その「荘川桜」の子孫が高槻の街にも移植されています。桜と言えば春ですが、紅葉の桜も味わいが有ります。秋の深まりを感じながら、名誉市民に思いを馳せてみませんか。

### 【名誉市民を考える会】開催

この会は4月から行われた講演に関して、学び直すことを目的に始まった会で、月2回行う予定で10月より開催しております。

**第一回** 10月12日(月):参加された皆様の自己紹介を兼ねて、参加された目的を聞かせて頂きました。「高槻をもっと知りたい」、「こんな偉い人がいてたとは」、「近代史を勉強したい」など皆様の名誉市民に対する熱い想いを語って頂きました。

**第二回** 10月26日(月):電源開発制作のDVD「桜守の歌」を視聴後、宇津木秀甫作「さくらものがたり」を読み合わせしました。DVDや物語を、見、聞き、読む中で疑問に感じたところを、参加者皆様の知識で補いながら深く学んでいく予定です。



11月の予定は下記の通りです。

11月 2日(月) 13:30~15:30 (クロスパル3階第3会議室)

11月 16日(月) 13:30~15:30 (クロスパル5階企画室)

皆様の知識でより良い会にしたいと思っております。是非とも皆様のご参加をお待ちしております。

受付事務局:村上(携帯:070-5677-3108)

### 【茨木高校創立 120周年記念:高碓達之助展示】

10月19日~24日茨木高校創立120周年記念として高碓翁の展示が有りました。この展示は学校とOBの久敬会共同で、記念展示「資料でつづる茨木高校 120年のあゆみ」として開催されたものです。高碓翁の展示は年表・中学卒業の写真などであり、特に創立60周年記念講演の肉声は貴重なもので感激しました。講演は「野口英世の母親の母性愛に感じ、翁が悲母観音を建立するに至った」という内容です。久敬会はこの様な行事を通じて、先人を敬い、後世に伝えられておられ、感激いたしました。茨木高校には、「高碓翁がダムによる水没から救った“荘川桜”」が1998年に新校舎竣工記念として植えられました。現在は6本あり、桜のシーズンには市域住民を和ませているそうです。他にも川端康成・大宅壮一・米沢富美子の展示がありました。



### 【新企画:こんなすごい人高槻にいてませ!!】

#### 第一回 織田信成

大阪府高槻市出身。大阪府立阿武野高等学校卒業、関西大学文学部英語英文学専修。織田信長から数えて17代目の末裔(旗本高家の織田信高の系統)。日本の元フィギュアスケート選手・プロスケーター・スポーツ解説者・TVタレント・指導者(コーチ)などで活動中。



「鳴かぬなら泣きに泣きます ホトギス」と泣きの織田くんである。

### 【高槻7中を訪問】

高碓達之助の顕彰活動として、高槻7中を訪問しました。古い記事ですが、2009年の「故高碓さん高槻7中学生徒会が研究」と言う記事に、『高碓翁を研究してみて「立派な国を作るのが政治家だと思っていたが、小さな地域の桜のために行動した。自分と同じ目線と感じた!』との思いが書かれていたからです。現在も校舎の廊下には学区の“身近な偉人”として「高碓翁肖像画」と、高碓翁が悲母観音を建立する切っ掛けとなった「野口英世の母親の手紙」が展示されています。しかし残念ですが、現在は生徒会の活動としては行われていないようです。

### 【新規会員募集中】

会の活動にご賛同いただける会員を募集しています。年会費 2,000 円です。是非ともご登録をお願いします。



高槻市マスコットキャラクター『はにたん』

発行:高槻名誉市民を語り継ぐ会  
ブログ <http://blog.livedoor.jp/takatsukimeiyoy5/>  
FB <https://www.facebook.com/groups/167866516706202/>

裏面に磯村彌右衛門講演第六回・高碓達之助講演第二回の概要を掲載しています。

## 【磯村彌右衛門第六回講演】の概要

### 1) 淀川水害と磯村

磯村彌右衛門の政治人生は淀川と共にあったとも言えます。磯村は府会議長であると共に淀川右岸水害予防組合の水防長でした。淀川水害を防止する為の水防費は、淀川沿岸農民の自己負担でしたが、一番淀川の恩恵を受けているのは大阪市で、何故その水防費まで淀川沿岸の農民が負担しなければならぬのかとの思いを抱いていました。戦後になって大阪府収用委員会委員長を14年間勤め、大阪市の復興に尽力しましたが、その根底にあったのは水防費負担問題でした。水防費は淀川沿岸各自治体はその恩恵に応じて負担すべきだと考え、大阪市のバランスの取れた負担を認めさせようと努力しました。その思いは死ぬまで続き、その後磯村の思いの方向に進む事になりました。



終戦直後の梅田駅前



昭和28年  
榎尾川左岸決壊

### 2) 戦後の磯村

公職追放令により市長職を解任されました。その時の事を「頭に釣鐘がかぶせられたような感じ」と後に語っています。何もできなくなったと言う事でしょう。敗戦による行政で一番大きな改革は、昭和21年の農地改革です。磯村家も自家飯用小作田だけを残し、全ての農地を農民に開放しました。公職追放令が解除された後、昭和27年大阪府収用委員会委員長に就任しますが、その頃から病を患い、病を押して大阪市庁に通っていました。国政に関しては自ら出馬することは無く、支援活動に力を入れ、最後は高碇達之助の支援を行いました。昭和39年には淀川水防での功績、収用委員長としての功績から、勲四等瑞宝章を授与されました。昭和41年4月9日にその生涯を終え、市民葬で送られ、従5位に叙せられました。昭和38年1月10日病の磯村を励まそうと名誉市民に表彰されました。

第6回記録ビデオ(ダイジェスト版) <https://realtimes.real.com/s/CaKedX>



昭和41年4月19日の市民葬

## 【高碇達之助第二回講演】の概要

### 1) 生い立ち

高碇達之助は、明治18年(1885)2月7日、三箇牧村(現高槻市)大字柱本で生まれました。柱本は淀川の河港で、農業だけではなく機織りも営み、木綿問屋、染物屋などもある町でした。高碇家も農業だけでなく紺屋と呉服屋を営んでいました。高碇は三箇牧尋常小学校に4年通った後、茨木の養精高等小学校に行きました。

### 2) 茨木中学時代

明治30年に茨木中学に入学し、高碇の人生を決めた浜田先生に出会いました。「日本の人口は今4千万人だが72年後には倍になる。したがって日本で取れる食料だけでは不足し、外国から食料を輸入しなければならない。そのために工業を興す必要があるが、今日本でさかんな繊維産業は、いずれ中国やインドに追い抜かれるだろう。周囲を海に囲まれたる日本は、魚を取るだけでなく、水産業を起し、水産製品を外国に輸出し、人口を養わねばならない。東京には、農商務省直轄の水産講習所という、水産の専門学校がある」との言葉に感動し高碇は卒業後水産講習所に行きました。

### 3) 水産講習所から伊勢

水産講習所は現在の東京海洋大学の前身です。入ってみると授業のレベルは高くなく、そこで余力もあり当時有名な北里研究所に通い細菌学を学びました。高碇の初めての就職先は伊勢の東洋水産で、技師長で採用されました。伊勢の生活で良かったことは、一生大事にできる人に出会えたことです。味の素の鈴木三郎助や真珠王の御木本幸吉と知り合ったことです。味の素の販売は容器の役割が大きく、偽物がいろいろ出回っていましたが、東洋製罐の開発した容器によって偽物を追放することができました。高碇は昭和30年代から死ぬまで味の素の取締役を務めました。



水産講習所



東洋水産



明治期の缶詰製造と缶

### 4) 渡米

鳥羽での水産業が上手くいかず、水産講習所の恩師井谷先生の紹介でアメリカに行くこととなります。「インターナショナル・フィッシュカンパニー」に雇われ、メキシコカリフォルニア半島の南端サンタ・マルガリタ島で仕事をすることになりましたが、製缶にするにもブリキがなく仕事が無い、魚はいるが漁民も漁船も無い。そのような生活の中、陸には無数の動物が居て、高碇を慰めてくれました。こうした野生の動物や小鳥たちとの交流が、高碇を動物好きにしました。この様な生活を過ごすうちに、高碇はアメリカでの排日運動の影響からスパイ容疑を掛けられましたが、日本で面識があったスタンフォード大学の総長ジョルダン博士に身元を保証され釈放されました。そのジョルダン博士との縁で知り合ったのが、後にアメリカ第31代大統領となる「ハーバート・フーバー」でした。



デイビッド・スター・ジョルダン



ハーバート・フーバー

第6回記録ビデオ(ダイジェスト版) <https://realtimes.real.com/s/xdu5sX>